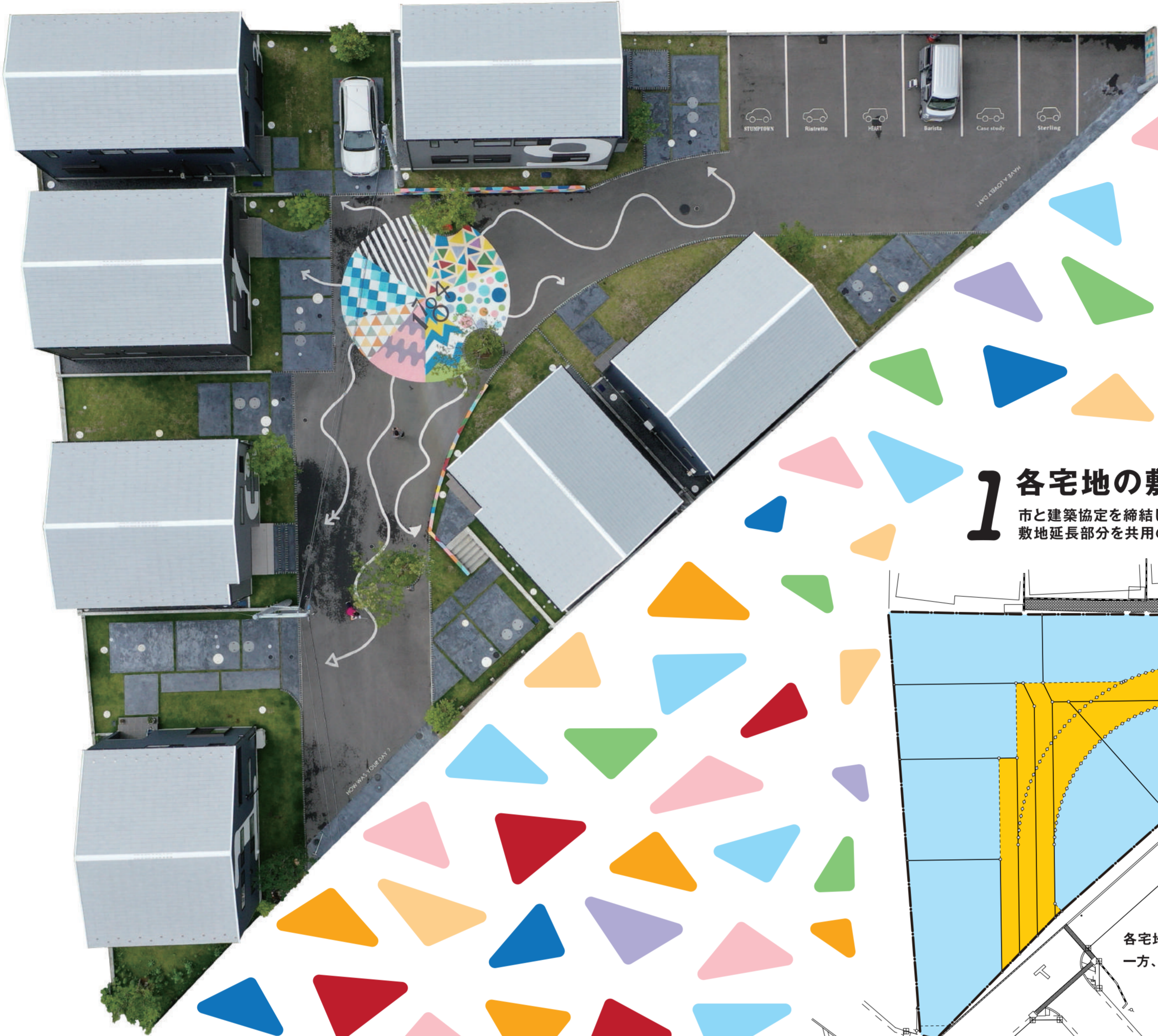


# アラ・ラ 若葉桜木

7戸の小規模開発であるが、近隣のスポンジ化したエリアに開くように、

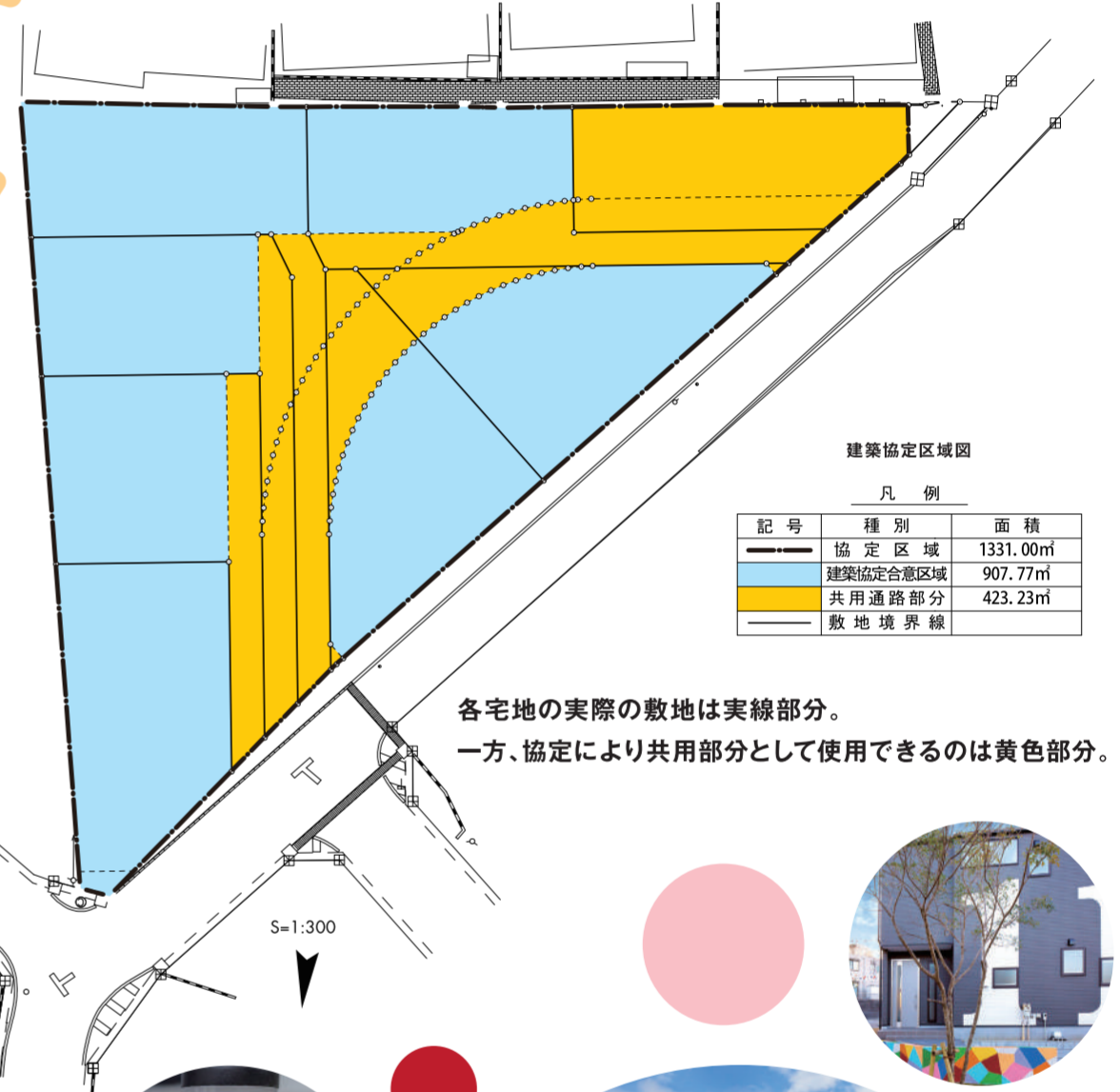
- 1 各宅地の敷地延長部の共用 2 アートペイント 3 シティリペア

等のシェアリングコミュニティを街づくりの要素に取り入れることで、住民以外の近隣の人々とも繋がりが、持続的にそのエリアが活性化するようにした。一方、2階リビングを取り入れるなど個の空間の確保にも配慮した。



## 1 各宅地の敷地延長部の共用

市と建築協定を締結し個別の狭小空間になりがちな敷地延長部分を共用の通路や広場として利用可能にした。



## 2 アートペイント

共用通路には子供たちが自由に落書きができ、空中にはフラッグやタープ、カテナリー照明などの設置が可能。



子供たちの落書きをモチーフにアーティストによりペンキでメインペイントに仕上げた



遊びゴコロ溢れる隠れアートが12ヶ所



各戸の数字は住所の枝番号をアートに



シティリペアのイメージ



窓の位置や大きさに配慮しプライベート空間を確保(夜景)



不要になった本やおもちゃを交換し合うシェアリングポスト



パブリックパーキング

## シティリペア 3

シティリペアという考えを導入、ペイントが擦れたら住民が集まりアートを再生するコミュニティの仕組み。

新たな取り組みとしてアートと街を融合させるだけではなく、コミュニティが持続的に生成するように、人々が自発的且つ定期的に集える方法「シティリペア」を導入した。また、コミュニティを大切にしながらも、各戸のプライベートを確保するため、間取りプランにおいても、窓やリビングの階数などを考慮し、プライベートとパブリックの空間をバランスよく配置した。契約時には20年の修繕計画に基づき、住民からあらかじめ修繕積立金を回収し、シティリペアを住民同士で自発的に実行できるような仕組みとした。芝刈りセットや掃除用具などの共有ツールの購入や街路樹剪定などの20年分の修繕費にあてられる計画となっている。

